

カジノ中心で矛盾・弊害

大阪井上^{市議} 事業者優遇ただす

日本共産党の井上浩大阪市議は15日の市議会大都市・税財政制度特別委員会で、万博跡地である夢洲第2期区域の土地課題対策・土地価格について取り上げ、夢洲におけるIR事業者優遇の姿勢をただし、「IR（カジノを中核とする統合型リゾート）中心のまち

づくりが、夢洲第2期区域にも深刻な矛盾と弊害を及ぼす」と指摘しました。

市側は、IR用地の液化化対策などは土地所有者の市が公金で負担するが、隣の万博跡地は一般的な処分と同様に事業者負担とする考えを示しました。

井上氏は、「本来、土地所有者として全ての事業者に一貫した対応が求められるが、IR用地と異なる扱いであり一貫性がない」と批判。「IR用地のように複数の鑑定業者が共通して低層のショッピングモールを前提に大値引きした不自然さが浮き彫りになる」と述べ、「夢洲のまちづくりを進めるにあたって公平性・公正性が担保されているか、土地鑑定の手法が問われる」と指摘しました。



質問する井上議員
15日、大阪市議会